

発行日
平成22年1月10日

発行
足立信也事務所
広報委員会
〒879-7761
大分市中戸次6126-1
TEL (097) 548-8484
FAX (097) 548-8400

目次

- 現場の声を医療政策に反映…… 1
- ご挨拶……1~2
- 足立信也の一日…… 2
- 活動報告 in 東京…… 3
- 活動報告 in 大分…… 4
- お知らせ…… 4

『足立信也と安心な日本を創る会』 <http://www.adachishinya.com> E-mail: info@adachishinya.com

民意を加速

現場の声を医療政策に反映!!

—厚生労働大臣政務官として—



11月6日 インフルエンザ対策等記者会見



12月3日 救急・周産期医療の病院視察

今後の医療政策



12月11日 毎日新聞主催シンポジウム

中医協人事、診療報酬、 新型インフルエンザ、そして次のステップへ

厚生労働大臣政務官
参議院議員 足立 信也



ご挨拶

皆様、新年明けましておめでとうございます。輝かしい2010年の新春を迎えられましたこと、心からお慶び申し上げます。昨年は選挙による政権交代という戦後初めての大転換が起りました。改めまして、皆様方のご支持と平素からのご支援に對しまして厚く御礼申し上げます。

平成21年9月16日に鳩山内閣は誕生しました。私に長妻昭厚生労働大臣から電話があったのは翌17日でした。「マニフェストの医療分野を実現してほしい。」そして、翌18日に私は厚生労働大臣政務官に就任しました。医療行政全般が担当です。それから11日間で（7日間の休日を含む）やらなければならなかったことは以下の5点でした。

- ・ 前政権の『焦土作戦』ともいえる何でもありの21年度補正予算の見直し
- ・ 出産育児一時金の直接支払い制度の猶予
- ・ 中央社会保険医療協議会（中医協）人事の素案
- ・ ワクチン接種を含む新型インフルエンザ対策方針の変更
- ・ 臨時国会提出法案の決定

①21年度補正予算の見直し

基本的に単年度限りの補正予算から、必要なものは恒久的に行えるように、そして、将来の成長戦略につながるように見直しを行いました。例えば、

- 子育て応援特別手当から子ども手当へ、
- 地域医療再生臨時特例交付金から診療報酬改定へ、
- 適用外薬の開発支援から新薬創出・適応外薬解消促進加算へ

といった制度改革です。

②出産育児一時金の直接支払い制度の猶予

これについてはホームページのメッセージをご覧下さい。一部メディアからは「医療機関が負うべき負担を妊産婦に付け回すのか」といった指摘もありましたが、この制度を強引に強制することによってお産できる施設が無くなってしまうとは本末転倒であると判断いたしました。

③中央社会保険医療協議会（中医協）人事の素案

中医協とは、厚生労働大臣の諮問を受け、示された方針に基づき診療報酬の点数（金額）の改定を行う機関です。メンバーは、支払い側委員（健康保険の保険者等）、診療側委員（医師、歯科医師、薬剤師）、公益委員（学識経験者等）の20人で、さらに専門委員10名が加わります。今回は、医師を代表する5名の選任に関心が集まりました。日本の医師のうち医療機関に従事する医師は26万4000人で、病院勤務が16万9000人、診療所勤務が9万5000人です。そのうち日本医師会加入者は16万6000人で約6割の加入率です。勤務

医を代表する立場から病院の規模別に3名、都市部と医療過疎地域の開設者からそれぞれ1名、以上を医師代表の5名としました。特に、卒前卒後研修が極めて大事であるという観点から全国医学部長病院長会議から1名、公益委員に患者代表として1名、専門委員にコメディカルスタッフから1名を選任した点が注目を浴びました。メディアには日本医師会との確執と取り上げられましたが、その後の予算編成における10年ぶりの診療報酬プラス改定とあいまって、医療再生に向け強力な布陣となったと考えていますし、日本医師会も変革の必要性を共有していると私は思っています。

④ワクチン接種を含む新型インフルエンザ対策方針の変更

⑤臨時国会提出法案の決定

7月21日の衆議院解散から9月16日の鳩山内閣誕生までの57日間は、対新型インフルエンザ対策にとつて痛すぎる空白でした。この間に新型インフルエンザ対策はまさに官僚主導でほぼ決定されておりました。この短期間で変更できることは限られています。どうしても必要だと思ったことは、1、世界からも酷評された検疫・水際作戦を反省すること。2、新型インフルエンザH1N1を正しく理解していただくために海外の知見、日本の試験データを公表すること。3、増加する感染者は地域によって差があることから、地域の判断を重視すること。4、感染者とそれ以外の人を時間的・空間的に振り分けられるように医療機関への補助を充実させること。5、感染者とワクチン接種者が接触しないように医療機関以外の保健所や保健センターなどを活用

できるようにすること。6、新型インフルエンザ対策特別措置法案は今回の事態への対処に限定したのですが、わが国の将来の予防接種のあり方を再検討するきっかけとすること。等でした。

特措法は成立しましたが、ワクチン行政、予防医療への取り組みは続きます。残念ながら継続審議となった社会保険病院・厚生年金病院等を公的存続させる法案も成立を目指します。（22年度予算編成の舞台裏、特に事項要求と診療報酬改定につきましてもこの予算案が可決・成立した後の次号に記載したいと思えます。）

この11日間に限らず、それ以上に忙しい日々が続きました。平成21年の100日間は、より国民に開かれた医療改革への第一歩でした。閉鎖的であったが故に国民と乖離し、そこに利権を生み、崩壊の危機と言われながらもその実情が共有されず、改めようとしても抵抗し孤立する、そんな医療界ではなかつたでしょうか。2001年に日本の医療制度は世界一と評価されたのです。私は、医療がこの国の閉塞感を打ち破る突破口になると思っていますし、環境、医療分野（介護、福祉を含む）が世界をリードすると確信しています。私の政務官室にはその4年間の工程表を貼っています。次の一歩へつながらるように今年、6年に一度の難関を乗り越えていきたいと思えます。

皆様方にとりましてこの1年が充実した素晴らしい年となりますようお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

足立信也の一日(例)

22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7
00~退室↓宿舎へ	30~会館事務所 メールチェック 日程決済	30~○○○団体 陳情対応懇親会	00~○○○協会総会・ 懇親会	50~退庁	00~秘書官打合せ	15~政務三役打合せ	50~事務説明	20~参 厚生労働 委員会(答弁)	20~休 憩	20~参 厚生労働 委員会(答弁)	00~参 厚生労働 委員会(答弁)	00~会館事務所 メールチェック 日程決済	00~会館事務所 メールチェック 日程決済	15~国会答弁打合せ (参厚労委関係)	15~国会答弁打合せ (参厚労委関係)
		事務所打合せ	○○○氏面会	00~マフソン開会式	00~第二十九回	30~OBS取材 新型インフルについて	30~テレビ朝日取材 報道ステーション	25~大分空港着	45~羽田空港発	25~大分空港着					議員宿舎発

活動報告 **東京**

■厚生年金病院・社会保険病院の

公的存続の要請（9月30日）

厚生年金病院・社会保険病院の公的存続を願う住民の団体及び首藤由布市長ら自治体関係者からの要請が、厚生省内の大臣政務官室で行われた。

厚立は当選以来、この問題に取り組み、さまざまな指摘・提言・政策立案を続けてきた。そして、現在、この問題を担当する立場となり、民主党らしきを出した改革を行うことを宣言した。



厚生年金病院・社会保険病院の公的存続の要請

■フジテレビ「とくダネ！」出演

（10月9日）

政務官となって初めてテレビに生出演した。日に日に深刻さを増す新型インフルエンザ対策について、詳しく語った。



フジテレビ「とくダネ！」出演

又、一問一答形式で国民の疑問に答え、多くの国民に正しい認識を持つてもらい、ワクチンの優先接種への理解をもらえるよう、丁寧に回答した。

■国立がんセンターにて講演

（10月13日）

■インフルエンザワクチン記者会見

（10月20日）

■表敬訪問 国連インフルエンザ対策

上級調整官 デビット・ナバロ氏

（10月28日）

■インフルエンザ対策等記者会見

（11月6日）

新型インフルエンザにかかり、重症化する子どもが増えていることに対処するために、ワクチンの子どもへの接種時期の前倒しを、各都道府県にお願いしたこと等について記者会見を行った。

※写真は一面に掲載

■広瀬大分県知事からの要請

（11月10日）

広瀬勝貞大分県知事が来訪され、厚生労働行政に関する要請を受けた。

少子化対策、

介護保険、後期

高齢者医療制度、

障がい者福祉政策、雇用労働政策など、

多岐にわたり、知

事はひとつひとつ

書類や図面を用いて丁寧に説

明した。



広瀬大分県知事からの要請

■事業仕分け参加

（11月11日）

■衆議院厚生労働委員会・挨拶

（11月11日）

■衆議院厚生労働委員会・一般質疑

（11月25・26日）

二日間に渡り開催された衆議院厚生労働委員会一般質疑において答弁を行った。質疑は新型インフルエンザに関するものが多く、大臣に代わり答弁に立つ姿が多く見られた。

又、26日においては、「新型インフルエンザ対策の推進に関する件」という決議が採択された。

■救急周産期医療の病院視察

（12月3日）

長妻大臣、山井政務官とともに、東京女子医科大学病院と河北総合病院の視察に訪れた。二年に一度の診療報酬改定をひかえ、医療崩壊の危機に直面している救急医療と周産期医療の現場を視察し、現場のドクター方から生の声を聞くことができた。

※写真は一面に掲載

■厚生労働委員会質問研究会出席

（12月9日）

■全国医学部長病院長会議出席

（12月10日）

■毎日新聞社主催シンポジウム・挨拶

（12月11日）

毎日新聞社が主催するシンポジウム「今後の医療政策」で挨拶を行った。健康被害にあった方を広く救済するために新型インフルエンザ特措法を作った経緯を説明し、今後、適正な補償金の額などを含めた感染症法予防全体の検討を進め、他国に比べ遅れていると言われているワクチン行政全体を見直し、ひいては予防医療全体を強化していきたいと述べた。

※写真は一面に掲載

■高齢者医療制度改革会議

（11月30日）

■政務三役会議の報告記者会見

（12月1日）

■衆議院厚生労働委員会委員派遣・広島

（12月14日）

活 動 報 告 大 分

政策フォーラム2009 in 大分

大分県の地域づくり



十二月五日、昨年三月以来の第二回政策フォーラムが大分市内で開催され、三〇〇名を超える方の出席をいただいた。「辻野功」別府大学客員教授・京都造形大学名誉教授と、「桑野和泉」由布院温泉観光協会会長・大分県文化振興県民会議委員のお二人をゲストにお迎えし、足立を加えた三名で、メインテーマである「大分県の地域づくり」を中心にディスカッションを行った。

今回の政策フォーラムは、出席者ともより身近に對話が出来、「大分」のことについて、あらゆる角度から再発見できた実りあるものとなった。

その後、出席者の中から質問や提言を受け、それぞれについて返答を行った。足立の専門分野である医療関係・医療政策についての質問が数多く出され、研修医制度に対する問題点や診療報酬の改定について、又地域医療についてなど、医療への思いを語った。



左より 桑野和泉氏・足立信也・辻野功氏



11月22日 九州山口薬学大会(別府)



10月24日・25日 車イスマラソン(大分)



10月10日 政治スクール(大分)

お知らせ

個人会員募集と更新のお願い

個人会員を募集しています。(年会費 ¥5,000) 事務所の運営費・足立しんや新聞の発行費・集会費等に充てます。皆様の入会をお待ちしています。また更新時期をむかえられた方には手続きをお願いしておりますので更新をよろしくお願い致します。

集会(見て聞いて知っちゃくれ)開催のお願い

足立信也を知っていただくための集会を計画しています。少人数でもかまいません、ご協力いただける方は、大分事務所までご連絡ください。(TEL 097-548-8484)

分日田玖珠地域協議会 第4回 定期総



12月6日 連合大分日田玖珠地域協議会

国政報告会



11月28日 佐伯



12月19日 中津

● 本紙は、再生紙を使用しています。